

【第9分科会】 学校安全
研究課題 命を守る安全教育・防災教育の推進

1 分科会の趣旨

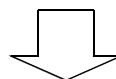
【研究課題の背景・現状】

- ◇自然災害や交通事故，不審者犯罪，児童虐待，ネット利用によるトラブル等，子どもたちを取り巻く危機的状況は多様化し，深刻さを増している。
- ◇安全で安心な教育環境を確保するとともに，子どもたちに，自然災害や事件・事故等に関する知識やそれに基づいて適切に判断して行動できる力を養うことが求められている。

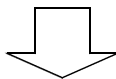
【研究課題解決の方向性】

- ◇安全教育・防災教育を計画的・組織的に推進するとともに，安全で安心な社会づくりの担い手となる子どもを育成するために，家庭や地域社会との連携に努める。

過去6大会の成果と
前年度の課題



背景・現状を踏まえて，具体的方策と成果を明らかにする



2 研究の視点

- (1) 自ら判断し主体的に行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進
 - ・安全・防災に関する学習を組織的・計画的に指導して，子どもに安全・防災に関わる知識と，自らの命を守るために適切に判断し，主体的に行動できる力を育成する。
 - ・多様な場面を想定した体験的な活動を取り入れ，判断力・行動力を高めていくための取組を推進する。
- (2) 家庭や地域社会との連携を図った意図的・計画的な防災に関わる取組の推進
 - ・保護者や地域住民，行政機関，警察や消防署などの関係機関と連携して，防災計画の策定や訓練を実施する。
 - ・自らの命を守り抜く「自助」と，自分自身が社会の中で何ができるのかを考える「共助・公助」を理解して行動できるように，家庭や地域社会との連携を推進する。

3 「校長の果たすべき役割と指導性を究明する」ための協議の柱

- ① 自ら判断し主体的に行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育をどのように推進するか。
- ② 家庭や地域社会との連携を図った意図的・計画的な防災に関わる取組をどのように推進するか。

第9分科会 「学校安全」命を守る安全教育・防災教育の推進

【視点①】 自ら判断し主体的に行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進

「自ら判断し、行動できる子どもを育てる持続可能な防災・安全教育の推進と校長の役割」

富山県 富山市立古里小学校 荒田 修一

1 趣 旨

不測の事態に遭遇しても、子ども自らが適切に判断・行動し、自他の命を守る意識と態度を身に付けられるようにすることが重要である。子どもの命と安全を守る防災・安全教育は最優先である。一方、多忙化する学校においては、様々な防災学習、訓練の精選と充実が必要であり、持続可能な防災・安全教育の推進が求められている。

そこで、防災教育を教育課程に無理なく位置付けるとともに、日々の生活に根付き、子どもの防災意識と危険を回避する能力を高める教育の充実、それらに伴う校長のリーダーシップが重要である。

2 研究の概要

- (1) 子ども自らが防災意識と態度を身に付ける組織、学校文化
 - (2) 各教科等の指導との関連を図り、子どもの防災意識を高める体験的活動の充実
- 以上の内容で、次の実践を通して発表する。

【実践①】校長の指導の下、防災主任と児童会担当が中心となって行った「子ども防災会議」を通じた防災訓練と日々の安全指導により、子どもが主体的に参加、参画する訓練を積み重ね、子どもの防災意識の高まりと、学校文化を創り出す動きを生むことができた。

【実践②】総合的な学習の時間と防災教育を関連させた学習を計画的に教育課程に位置付けることで、子どもは、多様な体験的活動に積極的に取り組み、地域に根ざした防災教育を通して、危険を察知し、自他の安全に配慮して行動できる力を育むことができた。

<メモ>

【発表内容に関すること】

【自己の実践等に関すること】

○有効な取組

○疑問・改善

◇「校長の役割と指導性」について、協議内容を簡潔にまとめると…【キーワードかキーセンテンスで】

☆参考キーワード

体験的活動の充実 各教科等との関連 振り返り PDCAサイクル 子どもの目線での安全点検
自分の命は自分で守る 子どもの主体性を促す取組 不審者事案における校長の役割

【視点②】 家庭や地域社会との連携を図った意図的・計画的な防災に関わる取組の推進

**「安全・安心を確保し、いのちを守る防災教育の推進
～家庭・地域・関係機関と連携・協働した取組を通して～」**

山形県 酒田市立亀ヶ崎小学校 齋藤正志

1 趣 旨

2011年に起きた東日本大震災では、甚大な被害を受けた太平洋側の地域に比べ、山形県の庄内地方は被害も多くなかった。そのため、防災意識も3.11の後でも、決して高くはならなかったのが実情である。しかし、昨今の猛暑やゲリラ豪雨による川の氾濫の恐れ、巨大台風、不審者など、子どもを取り巻く危機的状況は多様化し、深刻さを増している。学校は、非常災害時の避難場所・避難所となり、地域防災の拠点としての重要な役割を担っている。こうした役割を果たすためには、学校・家庭・地域が役割を明確にし、地域の防災力向上のための連携・協働した取組を進めることが必要であると考え、飽海地区全小学校27校で「防災教育」について再度見直し、意識や取組を振り返ってみた。そして、校長としての役割と指導性を明らかにしようと考えた。

2 研究の概要

- (1) 緊急時の連絡方法については、校長会として市町教育委員会への積極的な働きかけにより、メール配信システムの早期整備・運用が実現した。
 - (2) 引き渡し訓練については、単独での実施や幼保・中との連携による「+1の取組」も行われている。
 - (3) 地域・関係機関との連携・協働した取組では、「見る訓練から体験する参加型訓練」を行ったり、学校運営協議会で必要性が叫ばれて実施したり、行政の事業を活用したりしている。
 - (4) 児童・教職員の意識を高める取組では、「安全タイム」や防災教育アドバイザーの活用などを行っている
- 以上のような内容で研究を進め、第6次山形県教育振興計画（6教振）の基本テーマである「いのち・学び・地域」の3つの視点に沿って校長の役割や指導性について明らかにする。

<メモ>

【発表内容に関すること】

【自己の実践等に関すること】

○有効な取組

○疑問・改善

◇「校長の役割と指導性」について、協議内容を簡潔にまとめると…【キーワードかキーセンテンスで】

☆参考キーワード

緊急時の連絡方法 引き渡し訓練 地域・関係機関との連携・協働 コミュニティ・スクール
防災マニュアル 避難所開設マニュアル 自助・共助・公助 教職員の資質の向上・意識の高揚

過去6大会の成果と前年度の課題

領域IV 危機管理 第9分科会 学校安全

<p>25 三重 大会</p>	<p>研究課題 命を守る安全教育の推進 視点1 自ら判断・行動できる子どもを育てる安全教育の推進 視点2 地域との連携を図った意図的・計画的な取組の推進 □防災教育で、児童に身に付けさせたい自助、共助、公助を教職員全員にしっかり説明し、その教職員の意識向上を図り防災教育の必要性を確認することが重要である。 □防災に関するアンケートや実態調査を実施することで、学校自身の防災対策だけでなく、保護者、地域、行政との防災上の協働に関する課題を明確にすることができた。</p>	
<p>26 埼玉 大会</p>	<p>研究課題 命を守る安全・防災教育の推進 視点1 自ら考え、判断し、行動できる子どもを育む安全・防災教育の推進 視点2 地域との連携を図った意図的・計画的な学校安全・防災の推進 □校長の意識調査を行い、実践事例の収集・共有化したことは、危険に気づき、自ら適切に行動する子どもを育む上で有効であった。 □学校と地域が連携を深める防災連絡会議や防災学習、保護者・地域住民参加型の避難訓練等の実践から、職員及び児童の防災に対する意識が向上し、地域との連携の基礎づくりができた。</p>	
<p>27 山口 大会</p>	<p>研究課題 命を守る安全教育・防災教育の推進 視点1 危機回避能力を育む安全教育・防災教育の充実 視点2 地域や関係機関との連携を図った安全教育・防災教育の推進 □身に付けたい力や地域の特性を踏まえた全体計画や年間指導計画を作成することになる。その計画に基づいて校務分掌を編成し、安全教育や防災教育を実施していくことが重要なこととして確認された。 □幼保小中や地域、各種団体、行政などの関係機関のつながりとともに、校長同士の連携の大切さも確認された。</p>	
<p>28 高知 大会</p>	<p>研究課題 自らの命を守る安全教育・防災教育の推進 視点1 自ら判断し行動できる子どもを育てる防災教育・安全教育の充実 視点2 家庭・地域・関係機関との連携を図った意図的・計画的な防災にかかわる取組の推進 □自校の立地条件等を把握し、どんな災害が想定されるかを考えた避難経路の点検・見直し、防災マニュアルの工夫・改善が図られた。 □校長が保護者、地域、他校とつながる調整役となり、防災意識を高め組織化が推進されている。また、教職員の危機意識と指導技術力を高め、自ら判断し行動できる児童の育成の重要性が共通理解された。</p>	
<p>29 佐賀 大会</p>	<p>研究課題 自らの命を守る防災教育・安全教育の推進 視点1 自ら判断し行動できる子どもを育てる防災教育・安全教育の推進 視点2 家庭・地域・関係機関との連携・協働を図った意図的・計画的な防災にかかわる取組の推進 □子どもたちが自ら判断し行動できる力を高めるために、体験的・訓練的防災学習の充実や教職員研修の充実など、校長が中心となって、より実践的な取組を進めることで防災学習の向上が図られた。 □家庭、地域、学校運営協議会とも連携しながら、災害時には一つの組織として機能できるようにすることが校長としての大きな役割であることを確認した。</p>	
<p>30 北海道 大会</p>	<p>研究課題 命を守る防災教育・安全教育の推進と校長の在り方 視点1 自ら判断・行動できる子どもを育てる防災教育・安全教育の推進 視点2 家庭・地域等との連携を図った組織的かつ計画的な防災教育・安全教育の推進</p>	<p>成 果</p> <p>□「防災教育を教育課程に明確に位置付けること」や「校舎内外の状況を把握し、日頃から点検を行い備えておくこと」の重要性が確認された。 □「地域や関係機関と防災に関する現状や取組の情報を共有すること」「明確なビジョンを示し教職員の役割分担を明らかにするとともに、子どもの情報を把握し、その特性に応じた対応ができるようにすること」の重要性が確認された。</p> <p>課 題</p> <p>■自校の取組が、災害などから身を守る「生きる力」の育成につながっているかを検証する方策が必要である。 ■防災教育・安全教育を教育課程に位置付ける場合、必要十分な時間の保障を考えていく必要がある。 ■危機意識の希薄化を防ぐためにも、校長が防災に対する意識を発信し続けることが必要である。</p>

(各大会の集録より一部引用)